



第36号

平成24年1月26日

JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県利根郡みなかみ町 谷川岳

目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 現地支援 SW 報告会の報告
3. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
4. 現地支援活動報告①②
5. 現地・事務所協力員の感想文

災害対策本部からのお知らせ

災害支援 SW 報告会が開催されました！！

*詳細は災害支援 SW 報告会の報告を参照してください。

平成 24 年 1 月 20 日（金）19 時～21 時 日本医療社会福祉協会会議室にて災害支援 SW 報告会が開催されました。参加者は 15 名で、当日参加されなかった方のアンケート含め 31 通を回収することができました。

災害対策本部では、

- ・報告会に参加したみなさまからの感想、ご意見をお待ちしております。
 - ・会員のみなさまの要望に沿う報告会のあり方を模索しています。
- 「参加したいが場所や時間が合わない」「頻度が少ない/多すぎる」「内容をこうしてほしい」という意見を引き続き募集いたしますので、ぜひお寄せください。

災害対策本部会議を開催しました！！

平成 24 年 1 月 23 日（月）19 時～ 日本医療社会福祉協会会議室にて災害対策本部会議を開催しました。内容については、次号の災害支援ニュースにてご報告いたします。

現地・事務所協力員募集！！

引き続き現地・事務所協力員を募集しております。

慢性的に人手不足の状態です。

ご協力いただける方は災害対策本部までご連絡下さい。

なおホームページにて現地・事務所の活動カレンダーを掲載しておりますので、ご参照ください。

現地活動カレンダー：http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_PDF/22_Img_PDF.pdf

事務所活動カレンダー：http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_PDF/28_Img_PDF.pdf

現地の活動状況について

現地の日々の活動の様子をご覧いただけるようホームページに日報を掲載しております。皆様、ぜひご覧になってください。

現地日報：http://www.jaswhs.or.jp/touhoku/news.php?cat=1&@Page_Status@=none

<連絡先>

災害対策本部 月～金：10:00 から 17:00 土：10:00～12:00

TEL：03-3351-5038 FAX：03-5366-1058 Mail：dsstsw@jaswhs.or.jp

災害支援 SW 報告会の報告

報告者 取出涼子

(初台リハビリテーション病院)

平成 24 年 1 月 20 日 (金) 19 時~21 時、災害支援 SW 報告会が開催されました。

当日、東京は朝から雪の中、15 名の参加をいただき、有意義な内容を共有させていただいたことを報告いたします。

第 1 期の現地責任者の山田 (草水) SW、第 2 期の現地責任者の佐藤 SW より当時の活動の報告をいただき、参加者で意見交換をいたしました。現在の現地責任者の武山 SW は、この日に石巻から戻り、東京でのお仕事を精力的にこなされ、報告会にも顔を出してください、これから参加を検討している SW の相談に応じてくださいました。また、第 1 期に遊楽館における災害支援活動に尽力された順天堂浦安病院の櫻井 SW が、平成 23 年 11 月 19 日に開催された JIMTEF 災害医療研修の報告をしてくださいました。資料についてはホームページで閲覧いただけますので、ぜひお読みください。

9 月に多くの専門職支援団体が支援を休止した中、当協会は仮設住宅と在宅避難者への支援へと対象者とニーズが変化したことに応えようとしていること、その新たなニーズはなになのか、を現在模索していること、そして、そのニーズ把握のために現在行っている活動には、もっとたくさんのソーシャルワーカーの手が必要であること、が確認されました。

私が意義深く感じたディスカッションを 2 つ紹介します。ひとつは、「この活動はどこを目標に、いつまでつづけることになるのだろうか？」ということ。協会としては、平成 24 年度は事業を継続すると決定しています。つまり、短期的な災害支援活動ではなく、長い生活期の災害支援活動に着手しようとしている、といってもよいのではないかと。でも、災害支援活動である限り、いつかは収束し地元でバトンタッチをする必要があるのではないかと。そうだとしたらそれはいつ？どこに向かうのか？まだ答えが出ていないかもしれません。チャレンジをしているのかもしれません。月 1 回と定期的に現地に行くことで、お一人の方へ長期的な支援を申し出る、ということもできる可能性があることも紹介されました。一方、頻繁に現地へ赴けないソーシャルワーカーができる活動も大切なため、両方を視野に入れた活動の展開を考えていく必要をひしひしと感じました。

そして、「災害支援活動として、ソーシャルワーカーはどの程度現地から求められているのだろうか？」「この時期に、自分が出かけていって、一体何ができるのだろうか？」という問い。このことについても、いろいろな意見を交換しました。

公益社団法人 国際医療技術財団 (JIMTEF)
第 1 回災害医療研修に参加して

順天堂大学医学部附属浦安病院
医療福祉相談室 櫻井 裕美

福祉避難所における
ソーシャルワーカーが果たした役割

東日本大震災・石巻市遊楽館の支援活動から

西片医療福祉研究会
ソーシャルワーカー 山田美代子

日本医療社会福祉協会
東日本大震災災害支援活動
2011.10.5~12.11

2012年1月20日(金)災害支援SW報告会
佐藤吉

私は、阪神淡路大震災のときに多感な(?) 30代だったことを思い出しました。あの時も、ボランティアに出かけたソーシャルワーカーは同じことでみんな悩んでいました。その経験から今悩んでいるソーシャルワーカーにお伝えしたいです。本当に困っている人は自分から援助を申し出ることとはできない。ソーシャルワーカーならば、その場に出かけて、自分の目で、自分ができることがあるのかないのか、を判断してみしてほしい。その結果、いろいろな状況から自分はこの活動を継続しない、と思ってくださってもいいのです。ただ、少しでも気になり、少しでもなにかしなくては、と思ったら、とにかくその場に身を置くこと、これがソーシャルワークではないかなあと感じます。現地では、すでに先駆者が丁寧に居場所を作っています。現地が無理なら事務所の活動場所もあります。3ヶ月に1回でも、1年に1回でもよいのです。バトンを受け取ってみてほしいと思います。

会場からは「職場では災害支援は収束したような雰囲気になっており、長期のお休みが取りづらい」との意見もでました。なるほど。そうかもしれません。ソーシャルワーカーの関わる領域は、医療から生活へ、とスパンが長いことをこの意見からあらためて実感しました。各職場のソーシャルワーカーの長は、ぜひとも災害支援の状況に興味を持ち、やる気のある部下の派遣にご尽力ください。

もうひとつ感じたこと。継続すること、長期的に関わることは、われわれにとってもつらい、ということです。この生活が日常になることはとてもつらい。現地の人はもっとつらい。慢性疾患の方のつらさと通じるものを感じます。でも起きてしまった災害は取り消せません。だからこそ、無理しすぎず休みながらも継続することは重要なのだ、と逆説的ですが思っています。少しつらいですが、もう少し継続して、遠くからでもいいので心を寄せつづけてみませんか？

なお、今回から、会員外にも報告会を公開しましたところ、医療ジャーナリストの福原麻希氏がお越しくださいました。きっと現地の生活問題のこと、われわれの活動のこと、を社会に必要な形で広報することにご尽力いただけると思います。ご参加感謝いたします。



報告会の様子

医療福祉相談会の報告

報告者 一原 綾子

1月21日・22日に14回目の仮設住宅における茶話会／相談会を実施しました。

1日目の会場は今回で2回目の開催となりました。予約の行き違いか、被災住民による復興支援団体である「洞源院叢林舎」の方々がロータリークラブの視察の受け入れで会場を使用するとのことでした。短時間で終了予定であることと、ちょうど同じタイミングで茶話会/相談会のチラシを見て近隣団地に住む漫談家の方が応援に来て下さったことから、その場で待機しました。しかし使用が長引き、また開始前に声をかけた住民も茶話会/相談会にいらっしゃる様子がなかったため、視察団への簡単な挨拶と、視察団移動後に「洞源院叢林舎」の方々との交流を行いました。応援の漫談家の方もロータリークラブの方々に短い漫談を披露して帰られました。

「洞源院叢林舎」は、震災後、寺院「洞源院」への避難者が避難所解散時に組織したそうです。自ら被災し仮設住宅で生活しながらも、地元の復興を目指して、仮設住宅や在宅避難世帯への支援活動を精力的に行っている団体です。今後、茶話会を合同で開催する等、協働の可能性が生まれたと思います。

2日目の会場は今回で5回目の開催です。前回、鍵の管理者と補助役が決まりました。午前中はお茶のみをしながら参加者同士の交流を促進し、午後は鍵管理の補助役となった夫婦が用事を終えて帰宅し、毎回参加しているメンバーを伴って来室しました。今回初めての方も声掛けによって参加されました。鍵の管理について住民に周知するために、ともにチラシを作成。また皆で今後の談話室の使い方、自治活動について話し合いを行ないました。その中で、「いつも同じメンバーでお茶のみするだけではない企画をしたい」「暮れに湯たんぽを配りに来てくれた町内の子供会にお礼をしたい」との声があがりました。ためらいや不安を感じながらも、自分たちで何かをしたい、特に人に対して何かをしたいという思いを支援し、節分行事を開催して子どもたちを招待するという具体的な企画へと発展しました。



配布したチラシ&ポスター



茶話会の様子

現地支援活動報告①

高橋 智美（東邦大学医療センター佐倉病院）

期間：1月15日～1月17日

1月15日（日）

糠塚仮設で茶話会を実施。10時頃到着し準備、10時半開始。糠塚前仮設の方も来て、合計7名が来られる。市立病院の看護師さんと情報交換。

1月16日（月）

午前中はクラウドで分担しながら電話連絡。午後に専修大学災害復興支援協議会を見学、資料をもらう。自宅訪問、また次回茶話会のお知らせの掲示に行く。

1月17日（火）

午前中はクラウドで分担しながら電話連絡。午後は糠塚仮設の市立病院の健康相談会へ参加。

被災地へ赴くのは2度目でしたが、壊れた家屋や建物がそのままになっている状況を見てショックを受けました。しかし街中には「がんばろう」の文字が多く掲げられ、少しずつ復興していく様相がうかがえました。

電話で状況をお伺いすると「特に問題ありません」との返答も多かったのですが、それも日常に戻りつつある証であるのかなと思いました。ただ、「仮設の人はかわいそうだけど、自宅を直して住んでいる人たちには情報が届かない」など、情報が行き渡らない、不公平などを語られる方もいました。情報を統一して、特にアクセスが難しい世帯にもいきわたらせる必要性を感じました。

茶話会を楽しみにしていらっしゃる方もいましたが、中には被災体験に話が及ぶと顔色が暗くなる方もいました。複数のソーシャルワーカーがいる事で、自然と個別にフォローすることができました。仮設によっては隣に誰が住んでいるか分からないといった所もあり、今後こうした会を設けながらコミュニティの繋がりを持つ場が提供できることが必要であると思いました。

協会マンションはアットホームな感じで、とても楽しい日々を過ごせさせて頂きました。武山さんや山崎さんの手作り料理がとっても美味しく、幸せでした。

現地支援活動報告②

山崎 幸子

期間：1月16日～1月18日

震災後、初めての東北です。10ヶ月が経つのに被災地の惨状は聞きしにまさるもので、うず高く積まれた瓦礫の山は10メートルを超えるでしょうか、そのてっぺんにシャベルカーが一台ちんまり乗っかっていて、それは小さく見えました。復興までの道のりははるかかなたなのでしょうが、何事も継続と思います。仮設団地では住民同士の付き合いも少ないように感じました。少しでも外からの刺激、関わりは大切です。被災後の痛手を引きずり、慣れない仮設での生活、特に高齢者は家に閉じこもりがちになるので、寝たきり予防の対策として、食料品や日用品などの移動販売車でも来ればよいのと思いました。地元の人にとっては、遠くからの応援は私たちが考える以上の励みになるのではないかと感じました。ここでは異世代の方と交わることが出来、とても楽しかったです。

現地感想文

1月17日(火)

今日は、仮設での市立病院の健康相談会に協力参加しました。血圧を測りに来た方の家族への愚痴から、相談に結びつきました。

1月18日(水)

今日は、春のように暖かな日でした。近くの貞山堀の氷も今日は緩み、オシドリがのんびり。仮設の茶話会チラシ入れも、とても楽でした。

1月19日(木)

今日は暖かく、東京にいるのと変わりません。1か月ぶりに来て、宿舎も大変過ごしやすくなっていることに驚きました。おうちごはんができるようになったのもうれしいです(実際に作るかどうかは別として…)。

1月20日(金)

今日は災害対策本部長がいらっしゃり、中里のサポートセンターや祐HCクリニックへのご挨拶に同行しました。やはりSWへの期待の大きさを感じます。

1月21日(土)

今日は地元の団体と有意義な交流もできました。たくさん牡蠣をいただき、昨夜は殻むきと格闘し、オイル漬けを作りました。明日の相談会に差し入れたいと思います。

1月22日(日)

今日の相談会/茶話会は17時まで盛り上がりました。自治組織形成が進み、2/4に住民主体で節分行事が催されることになりました。暮れに湯たんぽを配ってくれた町内の子供会にお礼をしたい、との思いが語られ、その子どもたちを節分行事に招待するという企画へと発展しました。

1月23日(月)

今日は在宅避難者の三次チェック(調査結果を見て、次の会議までにフォロー職種を選定する作業です)の依頼が112件どさっと来ました。初めてだったので今日は戸惑ってあまりできませんでした。明日以降また件数が追加されるのでどんどんやっていかなければなりません。祐HCの方が即座にわかりやすいマニュアルを作ってくださいだったので、何とかします。

事務所感想文

1月16日(月)

中山(初台リハビリテーション病院)

今日は、現地活動協力員への応募1件、事務所支援活動協力員への問い合わせが1件ありました。有難く思います。また、現地活動協力員の方々の参加名簿をチェックしましたが、本当に多くのSWが参加されてきた実績・積み上げてきた支援を実感しました。

1月18日(水)

左右田(初台リハビリテーション病院)

現地より茶話会活動報告を頂き、多くの方が参加してくださったこと、そのための現地でのご準備、感謝致します。

1月20日(金)

取出(初台リハビリテーション病院)

本日は東京で雪が降りました…。現地や現地の仮設住宅の冷え込み、強いことと思います。

1月17日は、阪神淡路大震災の日でした。新聞には今も悲しんだり、苦しんだりしている方のニュースが載ります。大切な人や生活を失ったことは一生抱えていくのですね…。自分がその立場になった時に、支援してほしい形を考えながら、活動を考えていきたいと思っています。

1月19日(木)

佐藤(自宅)

はじめて一人での活動でした。これまでの現地活動協力員の名簿を整理していて、本当に多くのSWが関わって活動が継続されているんだなあと思いました。

1月21日(土)

佐藤(自宅)

今日も新宿で雪がぱらついていました。急ぎの作業もあり、静かに集中して事務作業ができました。本日現地では相談会・茶話会…どうだったのでしょうか？